

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100903		
法人名	はまなす介護センター株式会社		
事業所名	はまなす介護センター苗穂		
所在地	札幌市中央区北2条東9丁目11番地8		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100903&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活が穏やかに過ごせますように、転倒などの事故がないように見守りを中心としたお手伝いをさせていただいております。また、ベット上で過ごされる時間が多い利用者様も食事、おやつ時、レクリエーション時には離床していただき、他の利用者さんと一緒に過ごしていただけるようにしております。利用者さんがご自分らしく生活できるように努力しております。特にお誕生日には、ご本人とその日をどのように過ごしたいかを相談し誕生会の持ち方、会食の献立にご本人の希望を十分取り入れ満足していただけるようにしております。ご自分の希望を伝えるのが難しくなられた利用者さんには、故郷の郷土料理を取り入れた食事会やバイキング料理を職員が手作りする、楽しめるようにしております。また、ユニット内や、施設全体の行事の際は、歌をうたってくださる方、お花を活けてくださる方、お茶を点てくださる方など、一人ひとりが何らかの役割が持てるようにお手伝いしております。9月には、敬老の日をお祝いする会を3ユニット合同で開催、町内会婦人部の方の踊りや、利用者さんのコーラス、職員による余興などで楽しまれております。昼食は、バイキング料理や喫茶コーナーでケーキや和菓子、コーヒー、抹茶などを飲まれ、他のユニットの利用者さんとの交流を深めていただいております。俳句や短歌など、長年趣味で続けられていた利用者さんには、作品を発表する機会を作り励みになるようお手伝いしております。単調な毎日になりがちな施設生活ですが、春には北海道神宮に花見に出かけ、利用者さんの希望で植物園や紅葉狩りに出かけております。出来る限り散歩など外へ出かけ、地域の人との交流の機会が多く持てるよう努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きなショッピングモール、病院、会社関係が多い市街地に立地し地域との関わりが思うように入らない様子だが、敬老会、古紙回収など積極的に参加協力をし、地域との関わりを深めている。1階は事務所、会議室などの造りで、2階、3階、4階はグループホームとなっている。リビングの一面は大きな窓で四季折々の風景を眺める事ができ、程良い交通量もあり車好きの利用者には格好の眺めと思われる。踊り、コーラス、絵手紙などのボランティアの人たちを受け入れ、利用者が感性豊かに楽しく過ごせる時間づくりに努力をしている。近くにある協働病院は認知症に関する理解度が高く、24時間いつでも連絡がとれる体制作りが整っている。グループホームは施設の通過点とも一部では言われているが、このホームでは今までに数人の看取りを行い、利用者の最後の場としての役割もはたしてあり、それも職員の成長の大きな源となっている。日中は二人体制の日もあるが、入浴の湯は毎利用者ごとに取り替え消毒を徹底し、利用者が清潔で気持ち良く入浴を楽しめる事に努めている。職員は二人体制では「思ったケアが出来ない」と話していたが、その分、ケアの工夫を行い笑顔を増やす事にケアに取り組んでいる。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念“幸せになる”という目標に向かい、毎朝職員全員で理念を復唱して共有をはかりサービスの実践を行っています。	事業所理念、ケア理念を提示し、管理者と全職員は毎日理念を意識しケアの実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板をとおして町内の催しなどに参加させていただくよう努力しています。地域内の商店を利用、また、婦人部をとおして資源回収の協力をさせていただいています。施設行事には、ボランティアをお願いしています。	会社関係が多い市街地のため日常的な交流は難しいが、敬老会、古紙回収などの参加協力を行っている。踊り、コーラス、絵手紙などのボランティアを受け入れ極力地域との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の散歩時、車いす支援や声かけ等を見ていただき、理解していただけるよう努力しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している運営推進会議では、利用者の生活状況やサービス状況、災害対策などを議題にとりあげています。その中で出された意見、家族の要望などを今後のサービス向上につなげるように取り組んでいます。	地域住民、包括支援センター、家族、職員、議題によって専門職の出席で年6回会議を行い、そこでの意見、要望をサービスの向上に活用している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の研修会、中央区のグループホーム連絡会に参加し交流をはかり、サービスの質の向上に取り組んでいます。	市の研修会等に積極的に参加しており、いつでも相談できる関係維持に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催しています。どのような事が拘束に当たるのか、拘束の三原則の理解を含め、会議などで話し合う機会を作り拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでおり、身体拘束委員会で拘束チェックシートを作成し、身体拘束をしないケアを全職員で行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待委員会を開催しています。虐待の具体的な例、言葉等を文章で表わしチェックを行っています。スタッフ会議で話し合う機会を作っており防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議でも取り上げ、包括支援センターの職員から詳しい説明をいただく機会を作っています。現在支援対象利用者はいませんが、職員全員に制度を理解できるよう今後も取り組んでいきます。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は、グループホームの役割や入居要件を説明、利用者や家族の希望を伺い、十分な話し合いを行い納得していただいています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、不満、苦情を受け付ける意見ポストを設置しております。運営推進会議でも忌憚のない意見を出していただける雰囲気をつくり要望や意見を聞き、運営に反映するように努力しております。	意見箱設置、苦情受付機関掲示あり、運営推進委員会や家族訪問時の意見、要望などを運営に反映している。	家族への手紙内容に、本人の一月の様子、体調報告等、記載や盛り込みの工夫に期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ユニット会議の開催時、朝のミーティング時や連絡ノートを活用し、職員の意見を聞く機会を作っています。また、週1回3ユニットの管理者会議において、各ユニットの意見、提案などを報告、検討し運営に反映させています。	管理者は連絡ノート、会議での意見、要望、提案を受け、管理者会議で、報告、検討し、それらを運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はたびたび現場にも来ており、業務内容や状況変化を知り、職員とよく話す機会を持っており、職員の努力や成果を把握しています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外での研修を受ける機会を作っており、全員が順番に参加出来るようにしております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市及び中央区のグループホームの管理者会議、スタッフ研修に必ず出席しネットワーク作り、勉強会を通じサービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をしていただき説明するとともに、相談事や不安な事に対しては、その都度いつでも対応することを伝え、安心して入居できるよう十分な話し合いをし、関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談していただけるような環境や、話を伺う姿勢を考えながら関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容から、他の施設や機関が適していると見極めた時には、各施設や機関の特性を説明、情報提供をしています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する、される側という意識を持たず、ご本人の趣味や得意とする分野で力が発揮できるよう、一緒に考えたり話し合ったりし、穏やかな生活が出来、互いに感謝する関係を築く努力をしています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の事情を考え、家族と共に良い支援が出来るよう、十分な話し合いの場を作り、良い関係を作っています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人・友人が訪ねて来た時は、居室内や食堂フロアでゆっくり話が出来よう、飲み物などを提供するなどの配慮をしております。また、電話があった時も、ゆっくり話が出来よう気配りするように努めています。	以前楽しんでいた買い物、外食、温泉など、継続できるよう、家族の協力のもと、支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、食事やレクリエーション時には職員が間に入り、利用者同士良い関係が築けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、心配事や相談がある時は、いつでも連絡くださるように伝えています。誠意をもって相談や支援をするように努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のなげない話や表情・行動から、その時々意思をくみ取り、何を望んでいるのか本人の視点に立ち、話し合っています。	普段の会話から本人の思い、希望を聞き取る努力を行い、困難な場合は本人の立場に立ち検討を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活歴を伺い、また、居宅のケアマネージャーや病院のソーシャルワーカーと連携を図っています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や、心身状態の変化を記録し、総合的に把握するよう努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心として、利用者の担当者、他のスタッフ、施設看護師との話し合いを持っています。家族は「おまかせします」という事が多く、介護計画についての話し合いがあまり出来ていない為、今後の課題として検討していきます。	日頃より本人、家族の要望を聞き取り、計画作成者、担当職員、看護師などが中心となり、本人の現状に適した介護計画を全職員で作成を行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態を、個人日誌と介護日誌に記載し、評価・介護計画に反映させています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、本人や家族の要望に可能な限りの支援が出来るよう努力しています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内でのレクリエーション時や外出の際には、ボランティアの人達の協力を得て、楽しめるように努力しております。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による週1回及び週2回の往診を実施、体調不良時には随時往診をしていただいています。緊急時には、24時間医師との連絡が取れる体制もっています。家族が他の医療機関を希望される場合は、家族との連携を図り支援しています。	本人、家族の希望に添った医療が受けられる支援を行い、基本的に家族対応受診だが身体状況説明などの為、ホーム対応が可能である。協力医は定期往診、24時間連絡可能で、事業所は適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回施設看護師が来所するので、介護職員は利用者の日々の様子などを伝え、相談しています。また、時間を問わず携帯電話で連絡が取れるようになってますので、夜間の緊急時の対応や受診の相談をし、利用者や家族の不安を無くするようにしております。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を活用し、情報交換に努めております。病院のソーシャルワーカーと連絡を取り、早期に退院出来るよう支援しております。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に利用者・家族の意向を確認し、医師の診断をもとに、介護職員・看護師等と話し合い、医療機関と連携を取り、全員で方針を共有するように努めています。	早い段階で終末期の同意を交わし、ホームでの看取りを行い、その後も関係者と共にチームで終末期支援に取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故時のマニュアルを作成し、いつでも見える所に貼ってあります。看護師による急変時の対応の指導を受ける機会をつくっており、それをもとにユニット会議時には、繰り返し訓練し落ち着いて行動できるよう努力しています。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと避難訓練を実施し、運営推進会議でも災害対策についての議題を設け、消防署職員の指導をいただいています。地域の消防団との協力体制を整えており、ユニット会議時には必ず避難場所・避難方法を繰り返し確認するようにしています。	スプリンクラーを設置し、日頃より避難場所、避難方法を意識したケアを行っている。年2回の避難訓練は消防より意識が高いと評価されている。	今後は地域住民の協力体制を強化し、地震災害の水や備蓄品など確保の話し合いを充分に行い、さらなる災害対策に期待したい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が穏やかに笑顔でいられるように、常に一人ひとりの人格を尊重した思いやりのある言葉や対応を心がけています。	1人ひとりの声掛けに配慮し、常に人格を尊重した対応を心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「わかる事」「わからない事」を見極め、一人ひとりに合った言葉や対応を心がけています。本人の趣味など、やりたいときにいつでも出来るように支援しています。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はありますがそれにこだわらず、利用者のペースに合わせ、利用者から「今日は何をしたい」という言葉が出るように支援をしています。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは出来るだけ本人に決めていただき、職員は必要な時にお手伝いをしています。訪問理美容は本人と美容師が話し合って髪型を決めるように支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりをたたんでいただいたり、モヤシの根取りなどの下準備や、一人ひとりの能力に合わせ、下膳やテーブル拭きなどを手伝っていただいています。食事が楽しみな時間になるよう支援しています。	栄養士による献立でバランスのとれた食事である。本人の出来る範囲での食事準備、食器洗いなど食事を楽しめる支援に努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量のチェック、医師の指示による塩分補助、また、月1度の体重測定を行い施設看護師や主治医に報告しています。食事形態もミキサー食、刻み食、トロミ剤使用するなど、一人ひとりの状態に合わせて提供しています。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、口の中に残菜がないように注意し舌ブラシやうがい薬を使用するなどの支援をしています。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援しています。立位、座位が難しくなった利用者でも、職員2人体制で支援、排泄の自立に向けて支援を行っています。やむなくオムツ使用になった利用者には、交換時の環境、言葉に配慮した支援をしております。	1人ひとりの排泄パターンに添った声掛けを行い、トイレで排泄ができるよう自立支援に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し水分を多めに取っていただく、トイレ利用時腹部のマッサージをするなどの対応を行っています。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴が出来るようにしています。職員の都合で決めないようにしていますが、時には本人に確認し、了解を得て入浴していただくこともあります。	清潔な入浴が楽しめるよう毎回湯を入れ替え消毒を行っている。体調に配慮し個々に添った入浴支援に努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、日中は身体を動かしていただき夜はぐっすり眠れるよう支援しています。食後ベッドで休息したいという方もいらっしゃいますので、本人の希望どうりの支援をしています。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように服薬時は必ず職員2人体制で行い、飲み込むまでの確認を行っています。処方された薬は薬剤情報の確認を行っており、症状の変化は直ぐに医師に連絡しています。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるよう、その方の趣味や得意なことを把握し、手工芸や俳句、短歌、書道、コーラスなどを行う時間を設け、それを発表できる機会を作っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調を見ながら、近くの公園まで散歩をしています。出来る限り外出の機会を多く持つよう努力しています。家族と外食や喫茶店に行かれたり、お花の展示会に出かけたりしています。利用者の希望を聞き、百合が原公園や桜花見、植物園、さくらんぼ狩りなどに出かけています。しかし地域の人達との外出は出来ていません。	近くの公園散歩、買い物へ出かける事はあるが日中は職員が2人体制の時もあり、一人ひとりの希望に添った日常的な外出支援には至っていない様子である。	一人ひとりの希望や要望を把握し、期待に添える様な外出の支援に期待したい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じてお金を所持しています。自分で管理が難しい人は、買い物の際に財布を持っていただき自分でお金を支払えるよう支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を居室に設置されている方もいらっしゃいますが、ない方はユニット内にある電話を利用しています。手紙は自分で投函できない方はお手伝いをしています。希望時は代読をしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂フロアは車イスが自由に動かせ、広くゆったり過ごす事が出来るように物の配置を考えています。また、廊下には利用者が手作りした作品を飾ったり、花を活けたりして生活感や、季節感を感じていただけるよう配慮しています。作品などの展示は、利用者と相談しながら決めていきます。	リビングの大きな窓は一年を通し四季折々の街路樹の様子を楽しめ、日差しにも恵まれた作りである。廊下には写真、手作りの作品が飾られ、ほど良い室温、音量である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロアで新聞や雑誌を読んだり、テレビを観て過ごされる方が多くいます。利用者同士でのコミュニケーションが難しいときは、必ず職員がなかに入っています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みのある家具や、使い慣れた備品、日用品を持ってきていただいています。好きな絵や写真、自分で作った作品を飾り、自宅で過ごしているような気持ちでいられるよう心がけています。	居室は洗面台、クロゼットが備え付けであり、馴染みの家具、調度品、家族などの写真に囲まれ本人が、安心して過ごせるよう配慮がみうけられる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレに手すりが設置されており、浴室にはシャワーチェアやバスボードの設置、一人ひとりの身体機能に合わせ、安全に生活出来るように工夫しています。		